

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度 注意報第2号(普通期水稻のコブノメイガ)について (送付)



普通期水稻のコブノメイガについて、フェロモントラップでの誘殺状況やほ場での発生状況を以下のとおり取りまとめましたので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 注意報第2号

- 1 対象作物** 普通期水稻
- 2 対象病害虫** コブノメイガ
- 3 発生地域** 普通期水稻栽培地帯
- 4 発生量** 多
- 5 注意報発令の根拠**
 - (1) 本年のフェロモントラップによる誘殺数は前年、前々年に比べて多く(表1)、7月以降の誘殺はほぼ毎日認められる(表2)。
 - (2) 巡回調査における7月上旬の発生ほ場率は5%と平年並であったが、7月中下旬では48%と平年に比べてやや高い(表3)。
- 6 防除の考え方(令和2年度)**
 - (1) 本年は飛来波、飛来虫数とも多く、明瞭な飛来ピークが捉えにくい、今後の防除対策を考える上で、フェロモントラップへの誘殺状況から、防除適期を下記のとおりとした。
 - (2) 主な防除時期は、粒剤が8月2日頃、粉剤または液剤が8月4~10日と考えられる。8月16~22日は水田での発生状況を見ながら防除を行う(表4)。なお、防除時期は、下記を根拠とした。
 - ア. 7月24~26日誘殺虫に由来する次世代虫のふ化開始日は、8月2日頃と予想される。
 - イ. 7月1日、7月8~10日及び7月14~17日誘殺虫に由来する次世代虫の発蛾最盛日は、8月2日頃、8月9日頃及び8月16日頃と予想される。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 飛来量が多いので、育苗箱施用剤を使用した圃場でも発生に十分注意する。
- (2) 粒剤による防除を行う場合は、散布前には湛水し田面に均一に散布する。
- (3) 薬剤散布に当たっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散防止に努める。

表1 フェロモントラップでのコブノメイガの半旬別誘殺状況

月/旬	6/1	2	3	4	5	6	計	7/1	2	3	4	5	6	計
2020年	54	64	60	100	35	23	336	47	63	182	230	202		724
2019年	1	75	21	6	0	1	104	9	18	38	27	24		116
2018年	0	0	0	1	7	1	9	0	4	6	2	6		18

※ フェロモントラップによる誘殺数調査は、2018年から開始。

表2 フェロモントラップでのコブノメイガの日別誘殺状況 (2020年)

月/日	6/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
誘殺数	0	0	28	3	23	19	19	18	6	2	9	5	0	13	33	
月/日	6/16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
誘殺数	26	27	35	12	0	0	0	0	31	4	1	5	8	8	1	
月/日	7/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
誘殺数	20	3	0	17	7	5	6	16	20	16	9	33	21	76	43	
月/日	7/16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
誘殺数	62	69	34	45	20	29	10	15	89	59	36	3				

表3 巡回調査におけるコブノメイガの発生状況

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)			
		7月上旬		7月中下旬	
		本年	平年	本年	平年
南薩	10	0	9	50	29
北薩平坦	24	8	11	54	30
北薩山間	22	5	9	55	23
大隅	6	0	5	33	28
県計 (平均)	62	4	9	48	28

※ 調査日：7月上旬 2020年7月3～9日 7月中下旬 2020年7月15～27日

※ 平年は2010年～2019年の平均値

表4 誘殺日から推定した次世代発蛾最盛日と防除時期の目安

防除時期		誘殺日	次世代 発蛾最盛日
粒剤	粉剤または液剤		
8月2日頃	8月4～10日	7月1日	8月2日頃
—	8月4～10日	7月24～26日	—
—	8月16～22日	7月8～10日	8月9日頃
—	8月16～22日	7月14～17日	8月16日頃

注) 7月24～26日誘殺虫に由来する次世代虫のふ化開始日は、8月2日頃と予想される。